

鳥類 024	キジ目 キジ科	岡崎市 準絶滅危惧
<b>ヤマドリ <i>Symaticus soemmerringii</i> (Temminck)</b>		

**【選定理由・現在の生息状況】**

丘陵地から山間部の林・沢や草地などに周年生息する留鳥である。警戒心が強く観察されることは稀であるが、林道や草地で偶然出会うことがある。近年、宅地や工場などの建設による開発により、採餌場所や営巣場所に影響を与え、生息数は減少している。

そのため、更なる減少をくいとするための保全対策が必要である。キジと共に本種も狩猟の対象種として人気が高いため、かつて個体数の増加を目的に、人工的に飼育された雛を野外に放していたが、最近、本種についての放鳥は実施されていない。日本固有種。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

**【種の概要】**

全長は雄が 125cm、雌は 55cm。雄は全身が赤褐色。尾は非常に長く、淡褐色で黒と赤褐色の横帯がある。雌はやや小さく、黒褐色・灰白色・赤褐色などからなる複雑な模様がある。尾は雄よりもはるかに短い。雄は繁殖期に両翼を打ち振るドラミングを行う（五百沢ほか、2004）。

留鳥として本州・四国・九州に分布する。市内においては、市街地からやや離れた丘陵地から山地の良く茂った林に生息する。

繁殖期には、早朝に林から出て沢や山間の開けたところでも採食するが、日中は林内で行動する。主に植物の種子や葉などを採食し、昆虫類も食べる（叶内ほか、1998）。



岐阜県板取村，2010年10月5日，横山則一 撮影

**【引用文献】**

五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸，2004. 日本の鳥 550 山野の鳥，pp.66-67. 文一総合出版，東京。  
叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄，1998. 日本の野鳥，p.372. 山と溪谷社，東京。

（執筆者 小嶋良武）

鳥類 025	カモ目 カモ科	岡崎市 準絶滅危惧
<b>オシドリ <i>Aix galericulata</i> (Linnaeus)</b>		

**【選定理由・現在の生息状況】**

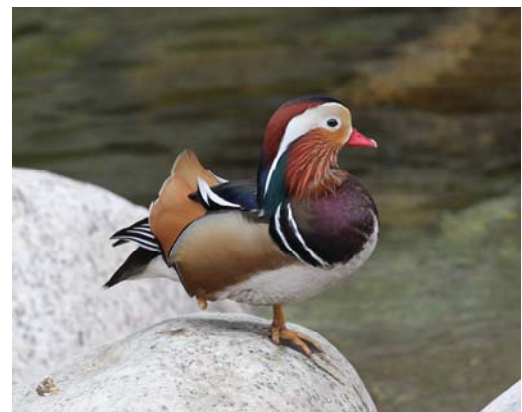
市内では、冬鳥として 10 月頃に渡来して、河川や池沼とその周辺に生息し、3 月頃に北や標高の高い地域へ渡去する。たいへん警戒心が強く、人の姿や気配を察知すると飛び去ることが多く、野外で観察することは容易ではない。近年、河川や湖沼の周辺の開発が進むとともに、埋め立てや護岸工事が盛んに行われ、本種が人目に触れず安心して休息する場所や採餌する場所が急速に減り、生息個体数も激減しており、更なる減少が懸念される（小嶋，1998）。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	情報不足

**【種の概要】**

全長 41～47cm。頭は扁平で、後頭に冠羽がある。頭上は暗緑色で眼の周囲から後ろにまが玉形の淡黄色の斑がある。胸は紫色を帯びた褐色。三列風切の 1 枚がオレンジ色の帆のように立つ「銀杏羽」となっている。赤い嘴で先端は白い。オレンジ色の足。雌は全身が灰褐色で、嘴は灰黒色。眼の周辺から後頭に向かって白い線がある。

中国東北部・朝鮮半島・サハリン・北海道・中部以北の本州で繁殖し、冬期は本州以南で越冬する。山間部の湖沼や溪流に生息し、冬期には平地の湖沼、公園の池にも飛来するものもいる（桐原ほか、2000）。冬は群れで行動する。日中は、樹木が覆い被さっている、木陰や水辺の樹上などで休息することが多く、夕方に飛び立って採食場へ行き、カシやナラのドングリを食べる（叶内ほか、1998）。



設楽郡田峰，2013年4月17日，小嶋良武 撮影

**【引用文献】**

桐原政志・山形則男・吉野俊幸，2000. 日本の鳥 550 水辺の鳥，p.186. 文一総合出版社，東京。  
叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄，1998. 日本の野鳥，pp.48-49. 山と溪谷社，東京。  
小嶋良武，1998. 西三河野鳥の会研究年報 Vol.1，pp.7-10. 西三河野鳥の会，豊田市。

（執筆者 小嶋良武）

鳥類 026	カイツブリ目 カイツブリ科	岡崎市 準絶滅危惧
<b>カイツブリ <i>Tachybaptus ruficollis</i> (Pallas)</b>		

**【 選定理由・現在の生息状況 】**

市内の河川・ため池など水辺に生息し、繁殖していたが、近年これらの環境変化により大幅に減少し、絶滅の可能性が増している。菅生川で冬期よく見られた10羽以上の群や夏期に抱卵中の巣を最近見ることが少なくなった。河川中州及びヨシの除去、ため池の公園化や遊歩道整備により生息環境が狭められている。またため池ではアカミミガメが増え、巣の破壊や幼鳥の捕獲により繁殖が妨害されている。更にオオクチバスが増えたために餌になる小型の魚の個体数が減ったことも本種の繁殖を妨げている。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

**【 種の概要 】**

全長 25～29cm、翼開長 40～45cm。小型のカイツブリ類。雌雄同色。夏羽は頭から背、後頸が黒く、顔から頬が赤褐色で、胸から下尾筒は淡褐色。太くて短めの黒い嘴で基部に黄白色の斑がある。冬羽は夏羽に比べ全体に淡褐色になる。翼は短く、体全体が丸く、尾は非常に短い(桐原ほか, 2000)。

日本全土で繁殖し、北日本では夏鳥、それ以南では留鳥。平地から山地の湖沼・池・河川・河口・内湾に生息する。ヨシ・水草・杭・水面に垂れ下がった木の枝を利用して浮いたような巣を作り、雌雄協力して繁殖する。キリッキリッキリッ、キリリリと鋭い声で鳴く。潜水して小型の魚類、他に甲殻類・昆虫類などを捕る(叶内ほか, 1998)。



岡崎市若松町, 2010年7月19日, 浅井 光 撮影

**【 引用文献 】**

桐原政志・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550 水辺の鳥, p.22. 文一総合出版社, 東京.  
叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄, 1998. 日本の野鳥, pp.18-19. 山と溪谷社, 東京.

(執筆者 浅井 光)

鳥類 027	ペリカン目 サギ科	岡崎市 準絶滅危惧
<b>ササゴイ <i>Butorides striata</i> (Linnaeus)</b>		

**【 選定理由・現在の生息状況 】**

近年は市内繁華街の公園などの樹上で繁殖している。近くの河川で餌の小魚を捕獲できるため、少しずつ個体数を増加させている。平成17年頃、1ヶ所の小公園のみで繁殖していたが、この公園の樹木の伐採が計画された。市民と行政との協働ワークショップでこの公園のあり方を検討し、必要な樹木を残す決定がなされた。その後、市内ではこの小公園から繁殖する場所を拡散している。市街地の公園などが繁殖地として選ばれるのは菅生川・伊賀川に餌に適した小魚が多く生息していることによる。今後も菅生川・伊賀川に多種類の淡水魚が多数生息できる環境を維持する必要がある。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

**【 種の概要 】**

全長 40～48cm、翼開長 62～70cm。小型のサギ類。雌雄同色。成鳥は額から頬線及び後頭にある冠羽は青みがかった黒色。背と翼は青みのある黒褐色で、体下面は淡青灰色。黒くて長い嘴で短めの黄色い足をしている。幼鳥は全体に褐色で顔から胸にかけて縦斑になり下嘴基部にある白斑が目立つ(桐原ほか, 2000)。

日本では主に夏鳥として本州以南で繁殖し、九州南部より南では越冬するものもいる。樹上や竹藪で枝を積み重ねて巣を作り、小さなコロニーを作って繁殖し、主として魚類を捕る。飛翔時に「キユウ」「キユウ」と良く鳴く。



岡崎市大西町, 2012年7月17日, 浅井 光 撮影

**【 引用文献 】**

桐原政志・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550 水辺の鳥, p.78. 文一総合出版社, 東京.

(執筆者 浅井 光)

鳥類 028	チドリ目 チドリ科	岡崎市 準絶滅危惧
<b>コチドリ <i>Charadrius dubius</i> Scopoli</b>		

**【選定理由・現在の生息状況】**

主に夏鳥として渡来し繁殖する。繁殖に適した場所は河原や中州の砂礫地で、最近河川敷に遊歩道・運動施設が建設、整備され、また護岸工事、中州の除去などにより繁殖に適した場所が少なくなっている。水域から離れた広い砂礫地、例えば駐車場・造成地などでも繁殖するが、高い草が生えると繁殖しなくなるので、造成地などを利用できるのは一時的である。一部越冬するが水田にすることが多い。冬期に水の入った水田が少なくなっているため越冬個体は少なくなっている。河原や中州に砂礫地を造成し、冬期に水入り田を設けることが本種の保存に重要である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

**【種の概要】**

全長 14~17cm、翼開長 42~48cm。日本では最も小さいチドリ類。雌雄ほぼ同色。成鳥夏羽は額が白く前頭が黒い。頭頂は灰褐色で前頭の黒色との間に明瞭な白線がある。太く黒い過眼線と黄色のアイリングが目立つ。胸には黒い帯があり、体上面は淡褐色で体下面は白色。冬羽は夏羽の黒い部分が淡色になる。幼鳥は冬羽に似るが、羽色が更に淡い（桐原ほか, 2000）。

日本では九州以北では夏鳥、本州中部以南では越冬するものもいる。河原・水田・埋立地・湖沼などで生息し、河原や中州などの草の少ない砂礫地で繁殖する。「ピオピオ」「ピピピピー」と鳴く。



岡崎市柱町, 2008年4月16日, 浅井 光 撮影

**【引用文献】**

桐原政志・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550 水辺の鳥, p.182. 文一総合出版社, 東京.

(執筆者 浅井 光)

鳥類 029	チドリ目 シギ科	岡崎市 準絶滅危惧
<b>ヤマシギ <i>Scolopax rusticola</i> Linnaeus</b>		

**【選定理由・現在の生息状況】**

本市においては冬鳥として渡来し、日中は主に暗い林内に生息し、採餌は夕方から夜間にかけて行うことが多い。ミミズ類を好んでとるが、昆虫類の幼虫、陸生貝類も好んで食べる。主に谷津田のような、林と水田や畑、草地がある場所に生息して採餌をするため、森林管理が不十分であったり、水田や畑の耕作が放棄されるなどして、餌となる小動物が減少すると本種の生息にも影響する。そして、住宅や工場などの建設、道路の拡充などによる開発が、豊かな自然環境を壊しており、減少につながっている。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

**【種の概要】**

全長 33~35 cm。大きな頭と太った体。まっすぐで長い嘴。頭を中心よりも後方に位置する眼。頭頂から後頭部に黒褐色の太い横斑がある。細い眉斑は灰褐色で、過眼線は黒褐色。背は黒褐色である（桐原ほか, 2000）。

ユーラシア大陸北部・中部で繁殖し、冬期は南方に渡るものもいる。日本では北海道から本州中部で繁殖し、東西南部から四国・九州・沖縄で越冬する。本市においては冬鳥あり、日中は林内で過ごすことが多く、夕方から夜間にかけて採食する。繁殖期には朝夕に、営巣地の上空を「ブウ ブウ チキッ」と鳴きながらディスプレイ飛行する。繁殖期以外はほとんど鳴くことはない（叶内ほか, 1998）。



西尾市一色町, 2012年12月12日, 下村孝嘉 撮影

**【引用文献】**

桐原政志・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550 水辺の鳥, p.242. 文一総合出版社, 東京.

叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄, 1998. 日本の野鳥, p.270. 山と溪谷社, 東京.

(執筆者 小嶋良武)

鳥類 030	チドリ目 シギ科	岡崎市 準絶滅危惧
<b>クサシギ <i>Tringa ochropus</i> Linnaeus</b>		

**【 選定理由・現在の生息状況 】**

市内では夏期には観察されず、冬鳥または旅鳥として河川・水田・水路・湿地などに生息する。通常単独でいることが多いが、環境の適した水田や水路などでは数羽越冬している。このような場所は少なくなり、環境を保護する必要がある。以前は休耕田には年中水が入っていたが、休耕田は皆無になり、冬期に水のある水田はほとんどなくなった。冬期水入り田圃は色々な生き物が生息し、豊かな生息環境を提供してくれる。水入り田圃の必要性を広く啓蒙し、農家に協力を得て実現していく必要がある。また一年中水のある水路を再構築する必要がある。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

**【 種の概要 】**

全長 21～24cm、翼開長 57～61cm。中型のシギ類。雌雄同色。成鳥夏羽では頭頂から頸は白地に灰褐色の縦斑が密にある。背から上面は少し緑色がかかった黒褐色で背と翼には小さな白斑がある。腹から体下面は白く、眼先とアイリングは白い。腰、尾は白く尾には黒い横縞がある。嘴は黒く、足は緑黒色。冬羽は額から上面が一様に灰褐色で白斑は淡色でまだらになる（桐原ほか、2000）。

日本には冬鳥または旅鳥として渡来し、関東以西で越冬する。河川・水路・湖沼・水田・湿地に生息する。「ツイツイツィー」「チュリーチュリー」と鳴く（真木・大西、2000）。



岡崎市大西町, 2013年3月1日, 小嶋良武 撮影

**【 引用文献 】**

桐原政志・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550 水辺の鳥, p.228. 文一総合出版社, 東京.  
真木広造・大西敏一, 2000. 日本の野鳥 590, p.256. 平凡社, 東京.

(執筆者 浅井 光)

鳥類 031	チドリ目 シギ科	岡崎市 準絶滅危惧
<b>イソシギ <i>Actitis hypoleucos</i> (Linnaeus)</b>		

**【 選定理由・現在の生息状況 】**

市内では周年川岸や中州の砂礫地や草地に生息し、少数繁殖している。最近河川敷に遊歩道が整備されたり、運動設備が建設されたり、護岸工事、中州の除去などにより生息に適した砂礫地が少なくなり、更に繁殖には砂礫地とそれに隣接した草地が必要であるが、こういう環境が少なくなっている。繁殖が確認できている場所はごく狭い環境であり、今後も継続されるか懸念される。河川・河川敷は生き物にとって重要な環境である。変化に富んだ環境は保存し、人の都合だけで河川を改良するのではなく、生き物の生息を考慮した多様な環境を造っていく必要がある。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

**【 種の概要 】**

全長 19～21cm、翼開長 38～41cm。中型のシギ類。雌雄同色。成鳥夏羽と冬羽に大きな差は見られない。成鳥は顔が淡褐色で褐色の過眼線と白っぽい眉斑がある。体上面が褐色で体下面は白い。胸の脇から翼角に白色が食い込み目立つ。嘴は黒褐色で足は緑黄色。飛翔時には白い翼帯が目立つ。尾を上下によく振る（桐原ほか、2000）。

日本では九州以北で繁殖し、本州中部以南で越冬する。河原・湖沼・水田・海岸などに生息する。昆虫・水生昆虫の幼虫、時に魚類を捕る。「ピーイ」「ツイリーリー」と鳴く。



岡崎市菅生町, 2005年9月25日, 浅井 光 撮影

**【 引用文献 】**

桐原政志・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550 水辺の鳥, p.234. 文一総合出版社, 東京.

(執筆者 浅井 光)

鳥類 032	フクロウ目 フクロウ科	岡崎市 準絶滅危惧
<b>フクロウ <i>Strix uralensis</i> Pallas</b>		

**【 選定理由・現在の生息状況 】**

平たい愛嬌のある顔をしているため、絵や彫刻の対象として一般の人にも人気がある。しかし、個体数は少なく、活動は主に夜間であり、特徴ある鳴き声を聞くことはあるが、姿をみることは大変稀である。ネズミや鳥類を主な餌とするが、両生類や爬虫類、昆虫類も餌とする（叶内ほか, 1998）。これらの餌の減少も本種の減少に影響するが、繁殖用の巣として利用する大木の樹洞が少なくなっていることが、大きな要因の一つであると思われる（杉山, 1998）。大木の生える森が守られることが望まれる。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

**【 種の概要 】**

全長 50cm、翼開長 95～110cm。雌雄ほぼ同色。体の上面は褐色で、淡褐色や白色の斑がある。翼は短く幅は広い。尾は長めで褐色の横斑がある。胸以下の体下面は白く、褐色の斑がある。主に繁殖期の夜間「ホオッ、ホオッ、ゴロスケホオッ、ホオッ」と鳴く。

ヨーロッパ北部および東部からオホーツク海西岸・中国北部および東部。サハリン・朝鮮半島に分布する（五百沢ほか, 2004）。

日本では留鳥として九州以北に分布する。平地から山地の林、農耕地、草地などに生息する。ふつう日中は暗い林の中で休息し、夕暮れから活動する。羽音を立てずに飛び回り、ネズミや鳥などをとる。



西尾市家武町, 2005年5月2日, 石川 均 撮影

**【 引用文献 】**

- 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸, 2004. 日本の鳥 550 山野の鳥, p.96. 文一総合出版, 東京.  
 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄, 1998. 日本の野鳥, pp.11-12. 山と溪谷社, 東京.  
 杉山時雄, 1998. 西三河野鳥の会研究年報 Vol.1, pp11-12. 西三河野鳥の会, 豊田.

(執筆者 小嶋良武)

鳥類 033	スズメ目 サンショウクイ科	岡崎市 準絶滅危惧
<b>サンショウクイ <i>Pericrocotus divaricatus</i> (Raffles)</b>		

**【 選定理由・現在の生息状況 】**

夏鳥として渡来し、平地から山間部の林に生息し繁殖する。1980年代以降、生息数が著しく減少した。これは針葉樹の植林地域が増えるとともに、宅地や工場などの開発が影響したためと思われる。

近年は、やや生息個体数は回復傾向にあると思われるが、今後も動向を注意深く観察する必要がある（愛知県環境調査センター, 2009）。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	絶滅危惧II類

**【 種の概要 】**

全長 19～20cm。スズメより大きく、体は細い。額と下面は白く、脇はやや灰色味がある。雄は頭上から後頭部が黒い。過眼線は黒い。背は灰黒色で、尾は黒くて長い。雌は頭上から後頭部が灰色で、額の白色部は狭い（五百沢ほか, 2004）。

ウスリー・朝鮮半島で繁殖し、冬期はフィリピン・中国南部からマレー半島・スマトラ・ボルネオに渡る。日本では本州・四国に夏鳥として渡来して繁殖する（五百沢ほか, 2004）。

林の上空を羽ばたいて波状飛行していることが多く、高木の高いところにとまることが多い。雄は飛行中または高木の枝先にとまって「ヒリリリヒリリリ」と繰り返して囀る（叶内ほか, 1998）。



岡崎市池金町, 2010年5月13日, 小嶋良武 撮影

**【 引用文献 】**

- 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸, 2004. 日本の鳥 550 山野の鳥, p.156. 文一総合出版, 東京.  
 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄, 1998. 日本の野鳥, p.446. 山と溪谷社, 東京.  
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009-動物編-, p.168.  
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

(執筆者 小嶋良武)

鳥類 034	スズメ目 カササギヒタキ科	岡崎市 準絶滅危惧
<b>サンコウチョウ <i>Terpsiphone atrocaudata</i> (Eyton)</b>		

**【 選定理由・現在の生息状況 】**

市内ではスギ・ヒノキの植林で繁殖していることが多い。国産材の安値や人手不足のため植林の手入れが行き届かず、荒れた暗い植林地が多くなり、繁殖には適さなくなっている。他の生き物のためにも植林の手入れが必要となっている。他に類を見ない美しい姿と鳴き声からアマチュアカメラマンの撮影対象になりやすく、更に鳴き声が大きいため営巣地が見つかり易い。巣の周りにカメラマンが集まり、営巣を妨害してしまうことがしばしば起きている。このような事象を防ぐことは難しいが、営巣の写真は皆で受け入れられないような対応が必要と思う。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

**【 種の概要 】**

全長は雄 44.5cm、雌 17.5cm。雄は頭部と胸が黒く、同色の冠羽がある。幅広のアイリングと嘴はコバルトブルー。背は紫褐色で光沢がある。中央尾羽が非常に長い。腹から体下面は白色。足は灰黒色。雌成鳥は頭部から胸が灰黒色で背は茶褐色。尾は茶褐色で雄に比べて長くない。アイリングと嘴はコバルトブルー。アイリングは雄より狭い（五百沢ほか、2000）。

日本では夏鳥として本州以南に渡来する。平地から低山の針広混交林、針葉樹の植林等の暗い林に生息する。「ギュッギュッ」「フィチー、ホイホイホイ」と特徴的な囀りをする。雌も同じような声で鳴くことがある。



岡崎市上衣文町，2011年7月4日，浅井光 撮影

**【 引用文献 】**

五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸，2000. 日本の鳥 550 山野の鳥，p.237. 文一総合出版，東京.

(執筆者 浅井 光)

鳥類 035	スズメ目 ツバメ科	岡崎市 準絶滅危惧
<b>コシアカツバメ <i>Hirundo daurica</i> Laxmann</b>		

**【 選定理由・現在の生息状況 】**

夏鳥として渡来し、市街地の開けたところや農耕地、丘陵地などに生息する。本市における生息個体数は少ない。近年はアパートや学校などの建造物の軒下に巣をかけるが、建造物の構造変化により巣の設営が難しくなっている。そして、最近ではスズメによる巣の乗っ取り行動がみられるようになり、生息個体数の増加はみられず、減少傾向にある。このことは、スズメも営巣場所の確保が困難な状況になってきていることがうかがえる。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

**【 種の概要 】**

全長 18~19cm。ツバメよりもやや大きい。雌雄ほぼ同色。頭上・背・上尾筒・尾は光沢のある黒色。眉斑から側頸・腰・下尾筒は赤褐色。体下面は白く、黒褐色の細い縦斑がある。尾は長く、深い燕尾である。北アフリカ・ヨーロッパ南部から中央アジア・中国・朝鮮半島で繁殖し、アフリカ東部・インド・東南アジア南部・中国南部に渡り越冬する。日本には夏鳥として渡来し繁殖する（五百沢ほか、2004）。人家の軒下やビルなどの建造物に、泥と枯草などを混ぜて唾液で固め、徳利を縦に割って貼り付けたような形の巣を作る。集団営巣をする。羽ばたきと滑翔を交えて飛翔するが、他のツバメ類よりも滑翔が多い。飛んでいる昆虫類を飛翔しながら捕食する（叶内ほか、1998）。



瀬戸市定光寺町，2013年7月16日，小嶋良武 撮影

**【 引用文献 】**

五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸，2004. 日本の鳥 550 山野の鳥，p.135. 文一総合出版，東京.

叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄，1998. 日本の野鳥，p.427. 山と溪谷社，東京.

(執筆者 小嶋良武)

鳥類 036	スズメ目 ツバメ科	岡崎市 準絶滅危惧
<b>イワツバメ <i>Delichon dasypus</i> (Bonaparte)</b>		

**【選定理由・現在の生息状況】**

市内の繁殖場所は菅生川の橋梁のみで、各所で観察される個体もここで繁殖したものと思われる。以前は他の建物や地下道でも繁殖していたが現在は確認できない。市内においては、例年、1月・2月・8月・9月の観察は稀であるが、他の月は菅生川及び市内各地で見られる。繁殖時期には集団で営巣し群れで連なって巣へ出入りする姿がよく見られる。多数繁殖していた場所でも突然いなくなってしまうことがある。現在の橋梁が唯一の繁殖場所であり、橋梁の塗装・補強などの改修を行う場合は繁殖時期以外を選ぶなど、自然環境に優しい方法を取る必要がある。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

**【種の概要】**

全長 13cm。ツバメより小さい。雌雄ほぼ同色。成鳥は頭部から背、尾羽が光沢のある紺黒色で、翼は黒褐色。飛翔時、腰の白色が目立つ。尾は短く、切れ込みは浅い。喉から側頸、体下面は汚白色で、胸、脇は灰褐色みを帯びる。嘴は黒い。足指まで白い羽毛に覆われている。羽ばたきが速く、滑翔、旋回を繰り返し俊敏に飛ぶ（五百沢ほか、2000）。

日本では九州以北に渡来し、一部は越冬する。平地から高山帯にかけて開けた場所に生息し、建物の軒先・橋げた・岩場・山小屋等の軒下などで集団営巣する。「ジュリリ、ジュリリ」「ジュッ、ジュッ」と鳴きながら飛ぶ。



岡崎市菅生町, 2010年1月30日, 浅井 光 撮影

**【引用文献】**

五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550 山野の鳥, p.123. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 浅井 光)

鳥類 037	スズメ目 ミソサザイ科	岡崎市 準絶滅危惧
<b>ミソサザイ <i>Troglodytes troglodytes</i> (Linnaeus)</b>		

**【選定理由・現在の生息状況】**

夏期は山間部の溪流沿いの林に生息し繁殖する。冬期は丘陵地の沢沿いにも移動して生息する。しかし、近年は個体数の減少傾向にあり心配される。山地の森林環境の変化や道路網の整備などによる、生物多様性ある森の減少により、餌となる昆虫類などにも影響し、適した生息環境が縮小されていることが要因の一つと考えられる。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

**【種の概要】**

全長 10~11cm。スズメよりずっと小さく、日本最小クラスである。

ほぼ全身が茶褐色で、黒褐色の横斑がある。尾は短く、眉斑は淡褐色で細い。雌雄同色である（五百沢ほか、2004）。

ヨーロッパ・中近東・中央アジアからロシア極東南部・朝鮮半島・台湾・北アメリカ西部・東部で繁殖し、北のものは冬期南方へ移動する。日本では留鳥として大隅半島以北で繁殖する。冬期に暖地へ移動するものもいる（五百沢ほか、2004）。

主に林床や地上近くで生活し、開けた明るいところにはほとんど出ることはない。岩や倒木などの多い暗い林床、溪流の岩の隙間や藪などを歩きながら、主に昆虫やクモ類などを採食する（叶内ほか、1998）。



北設楽郡設楽町, 2007年4月26日, 緒方清人 撮影

**【引用文献】**

五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸, 2004. 日本の鳥 550 山野の鳥, p.171. 文一総合出版, 東京.  
叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄, 1998. 日本の野鳥, p.461. 山と溪谷社, 東京.

(執筆者 小嶋良武)

鳥類 038	スズメ目 ヒタキ科	岡崎市 準絶滅危惧
<b>クロツグミ <i>Turdus cardis</i> Temminck</b>		

【選定理由・現在の生息状況】

夏鳥として渡来し、丘陵地から山間部の比較的明るい林に生息し繁殖する。市内における生息は限られた地域であり、個体数は少ない。本種が生息し繁殖するためには、生物多様性ある明るい混交林の森が必要であり、開発等による減少を防ぐとともに、適切な森の管理により、豊かな森が保全され、再生されることが望まれる。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

【種の概要】

全長 21.5cm。雄の頭部・体下面・胸は黒い。腹以下の下面は白く、脇に三角形の黒斑がある。嘴と足は黄色で、アイリングも黄色。

雌は上面がオリーブ褐色。下面は白く、黒褐色の斑がある。脇と下雨覆は橙褐色。

日本・中国中部で繁殖し、中国南部からインドシナ北部で越冬する。日本では夏鳥として九州以北に渡来する（五百沢ほか、2004）。

地上を数歩跳ね歩いては、立ち止まって胸を張る。この行動を繰り返しながら、落ち葉や土を嘴でかき分けて、ミミズ類や昆虫類の幼虫を採食する。秋には木の実を食べる。林内を飛んで移動することが多い（叶内ほか、1998）。



安城市大山町，2011年4月29日，浅井光撮影

【引用文献】

五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸，2004. 日本の鳥 550 山野の鳥，p.201. 文一総合出版，東京。  
叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄，1998. 日本の野鳥，p.480. 山と溪谷社，東京。

（執筆者 小嶋良武）

鳥類 039	スズメ目 ヒタキ科	岡崎市 準絶滅危惧
<b>コサメビタキ <i>Muscicapa dauurica</i> Pallas</b>		

【選定理由・現在の生息状況】

市内山地の落葉広葉樹林で少数繁殖しているが、里山の維持管理が十分でない現状では繁殖する個体が減少している。里山の保全は本種のみならず、色々な生き物にとって重要である。春秋の移動の時期には市内の公園などで見られることがあり、フライングキャッチにより小さい昆虫を食べていることが多い。移動の前の体力作りが目的で、市内の公園に多様な環境を維持していくことが重要である。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

【種の概要】

全長 13cm。雌雄同色。成鳥は顔、頭から尾羽までの上面が灰褐色で尾はやや濃色。翼は黒褐色。アイリングと目先が白い。喉から体下面は白色で胸から脇は褐色みを帯びる。上嘴と下嘴先端は黒色で、下嘴中央部から基部にかけて橙黄色。足は黒っぽい。幼鳥では頭部から背にかけてバフ色の斑が目立つ（五百沢ほか、2000）。

日本では夏鳥として九州以北に渡来する。平地から山地の落葉広葉樹林で繁殖する。春秋の渡りの時期には市街地の公園などに現れ、枝先にとまりフライングキャッチをよく行う。繁殖期には雄が細い声で「ツィーチリリチョピリリ」など複雑な囀りをする。渡りの時期にはあまり鳴かない。



岡崎市竜美旭町，2013年9月4日，浅井光撮影

【引用文献】

五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸，2000 日本の鳥 550 山野の鳥，p.235. 文一総合出版，東京。

（執筆者 浅井 光）



鳥類 040	スズメ目 ヒタキ科	岡崎市 準絶滅危惧
<b>オオルリ <i>Cyanoptila cyanomelana</i> (Temminck)</b>		

**【選定理由・現在の生息状況】**

夏鳥として低山の落葉広葉樹林に渡来し繁殖する。夏鳥の代表的な鳥としてキビタキと共に人気の鳥であるが、キビタキが増加している反面オオルリは減少している。オオルリは崖の岩棚や物置小屋・巣箱などの人工物でも繁殖するので、人目に付きやすい。綺麗な鳥で鳴き声が良いので、ヒナやある時は巣ごと持ち去られることがあり、減少の原因の一つと思われる。ヒナの盗難を防ぐことは難しいが、野鳥が飼育されているのを見つけたら素早く警察に通報し、野鳥を飼うことができない環境作りを徹底する必要がある。そして、豊かな里山林の衰退とカシノナガキクイムシによる落葉広葉樹林の被害及び荒廃も、本種の減少の要因である。

県・国の評価区分	
愛知県	リスト外
環境省	リスト外

**【種の概要】**

全長 16～16.5cm。雄の成鳥は頭部から背、尾までの上面は青色で、額から頭頂はコバルトブルー。目先から喉・頬・胸・脇は黒い。翼は黒褐色。腹から体下面、下尾筒は白い。嘴と足は黒い。成鳥雌は上面がオリーブ褐色で尾は赤褐色を帯びる。下面は淡褐色で腹は白っぽい（五百沢ほか、2000）。

日本では夏鳥として九州以北で繁殖する。低山から山地の広葉樹林・針広混交林に生息し、溪流や沢沿いを好む。囀りは「ヒーヒー」「ピーヒーピー」などの後に「ジジジ」と濁った声が入る。



岡崎市小美町, 2004年6月14日, 浅井 光 撮影

**【引用文献】**

五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸, 2000 日本の鳥 550 山野の鳥, p.232. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 浅井 光)

鳥類 041	キジ目 キジ科	岡崎市 情報不足
<b>ウズラ <i>Coturnix japonica</i> Temminck et Schlegel</b>		

**【選定理由・現在の生息状況】**

本種は草むらに生息していることが多く生態を観察できる機会が少ない。当地では繁殖は確認できず、冬期に単独または2羽で河川敷や水のない田圃にいるのを見ることがあるが、生息数は僅かである。河川敷に遊歩道や運動場などの施設が整備されたため、生息に適した草むらが少なくなっている。施設を作る場合も一部に草むらを残すことを考えなければならない。河川敷の清掃は必要だが、全面の草を刈り取ってしまうのではなく、色々な動物が通路として利用するような草むらの回廊を確保する必要がある。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	絶滅危惧Ⅱ類

**【種の概要】**

全長 20cm。雌雄同色。小さくて丸い体で尾は短い。雄成鳥夏羽は顔から脇が赤褐色で黒と淡黄色の横斑と縦斑がある。眉斑、頭中央線は白っぽい。頬と喉は黒色の縦斑がある。嘴と足は黒褐色。雌夏羽は雄に似るが赤褐色みがなく、頬、腮、喉は白っぽく、眉斑は淡黄色。雌雄ともに嘴は小さく黒く、足は淡肉色。成鳥冬羽は雌雄ともに全体がやや淡色になる。（五百沢ほか、2000）。

日本では本州中部以北で繁殖し、中部以南では冬鳥として渡来する。平地から山地の草原・牧草地・河川敷・農耕地等に生息する。繁殖期には「ピョピョピョ」と鳴く。草の種子・芽・実・昆虫類・クモなどを採食する。



岡崎市上里町, 2012年4月18日, 清水正義 撮影

**【引用文献】**

五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸, 2000 日本の鳥 550 山野の鳥, p.62. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 浅井 光)

鳥類 042	フクロウ目 フクロウ科	岡崎市 情報不足
<b>オオコノハズク <i>Otus lempiji</i> (Horsfield)</b>		

**【選定理由・現在の生息状況】**

留鳥として、周年生息しているが、夏期は丘陵地及び山間部の林で繁殖し、冬期は平野部の雑木林などに生息するが個体数は少ない。夜行性であり、観察が難しいため詳細な生息状況は明らかではないが、繁殖や罠として利用される大きな木が少なくなっていることから、生息状況は悪化しているものと考えられる（愛知県環境調査センター, 2009）。

県・国の評価区分	
愛知県	準絶滅危惧
環境省	リスト外

**【種の概要】**

全長 24～25cm、翼開長 55～59cm。雌雄ほぼ同色。全身灰褐色で、黒や灰色の複雑な斑がある。羽角は長め。後頸に灰白色、または黄褐色の斑がある。胸に黒褐色の虫食い状の縦斑がある。虹彩はオレンジ色。

ネパール・中国東北部・朝鮮半島・台湾・マレー半島などに分布する。日本では小笠原諸島を除く全国で繁殖し、北方のものは冬期南へ移動する（五百沢ほか, 2004）。

日中は樹木の茂みの中や樹洞の中などでじっと休息していて、夕暮れから活動を始める。羽音を出さずに飛び回り、一定の採食場で主にネズミ類をとる。また、眠っている小鳥類を襲ったり、ときにはカエルや昆虫類をとることもある。樹洞の底に直接卵を産んで繁殖する（叶内ほか, 1998）。



西尾市一色町, 2012年12月2日, 下村孝嘉 撮影

**【引用文献】**

- 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸, 2004 日本の鳥 550 山野の鳥, p.94. 文一総合出版, 東京.  
 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄, 1998. 日本の野鳥, p.363. 山と溪谷社, 東京.  
 愛知県環境調査センター(編), 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009・動物編-, p.165.  
 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.

(執筆者 小嶋良武)

鳥類 043	タカ目 タカ科	岡崎市 地域個体群
<b>ハチクマの渡り群 (桑谷山系) <i>Pernis ptilorhynchus</i> (Temminch)</b>		

**【選定理由・現在の生息状況】**

夏鳥として渡来して、丘陵地から山間部にかけて生息し繁殖する。本種は繁殖後、秋にはインドネシアなど東南アジアへ渡り、春には再び戻ってきて繁殖をする行動を繰り返している。その毎年の渡りの時期には、おおむね同じコースを通過していることが判明しつつある。以前から、秋には伊良湖岬から三重県方向へ渡ることが分かっているが、近年、桑谷山系も大きな渡りのコースの一つであることが分かってきた（小嶋, 2007）。繁殖地の保全とともに、渡りのコースとして利用される桑谷山系が、障害物のない豊かな森であることが望まれる。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	準絶滅危惧

**【種の概要】**

全長 57～61cm、翼開長 121～135cm。雄は翼下面では風切に2～3本のやや太く黒っぽい帯があり、尾にも2本の太くて黒っぽい帯がある。雌は翼下面の風切が雄より細く黒っぽい帯がある。

ヨーロッパからロシア極東南部・中国東北部・インドから東南アジアで繁殖し、アフリカ・東南アジアで越冬する。日本には夏鳥として九州以北に渡来する（五百沢ほか, 2004）。

近年、GPSによる追跡調査により、日本国内で繁殖した個体は、秋には東シナ海を渡り、中国・ベトナム・タイ・マレーシアなどを通過し、インドネシアなどで越冬することが分かってきた。そして、翌年の春には再びほぼ同じコースを通り日本各地へ戻ってくることも分かってきた（樋口, 2005）。



岡崎市山網町, 2011年9月22日, 浅井光 撮影

**【引用文献】**

- 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸, 2004 日本の鳥 550 山野の鳥, pp.18-19. 文一総合出版, 東京.  
 樋口広芳, 2005. 鳥たちの旅 渡り鳥の衛星追跡, pp.39-47. 日本放送出版協会, 東京.  
 小嶋良武, 2007. 西三河野鳥の会研究年報 Vol.10, pp.11-19. 西三河野鳥の会, 岡崎市.

(執筆者 小嶋良武)

サシバの渡り群（桑谷山系） *Butastur indicus* (Gmelin)

## 【 選定理由・現在の生息状況 】

夏鳥として渡来して、平地から丘陵地にかけて生息し繁殖する。国内で繁殖後、秋には九州から、沖縄・台湾などを通過して東南アジアで越冬する。1970年代に、伊良湖岬で本種の渡りが観察され、その後伊良湖岬は大きな渡りのコースであることが確認された。近年、調査により桑谷山系も渡りのコースの一つであることが分かった（小嶋, 2007）。繁殖地の保全とともに、桑谷山系が障害物のない生物多様性のある豊かな森であることが望まれる。

県・国の評価区分	
愛知県	絶滅危惧Ⅱ類
環境省	絶滅危惧Ⅱ類

## 【 種の概要 】

全長 47～51cm、翼開長 105～115cm。雌雄ほぼ同色。雄は眉斑が不明瞭のものが多く、頬は灰色味が強い。頭上以下の上面は茶褐色。喉は白く、中央に黒褐色の縦線が 1 本ある。胸は茶褐色の幅広い斑があり、帯状に見える。雌は一般的に白い眉斑が明瞭で、頬の灰色部の範囲は狭い。胸の茶褐色部には淡褐色の斑が目立つ（五百沢ほか, 2004）。

ロシア沿岸地方・中国北東部・朝鮮半島で繁殖し、中国南部・東南アジアで越冬する。日本では本州・四国・九州で繁殖する。秋には鹿児島・沖縄などを通過し、東南アジアで越冬する（五百沢ほか, 2004）。愛知県では伊良湖岬が大きな渡りのコースであり、桑谷山系も多数通過する。



岡崎市山網町, 2010年9月27日, 小嶋良武 撮影

## 【 引用文献 】

五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸, 2004. 日本の鳥 550 山野の鳥, pp.36-37. 文一総合出版, 東京.  
小嶋良武, 2007. 西三河野鳥の会研究年報 Vol.10, pp.11-19. 西三河野鳥の会, 岡崎市.

(執筆者 小嶋良武)